

経済倶楽部便り

◆東京◆ 8月は定例講演会が休会ですが、記録的な猛暑同様、内外情勢は激しく動き続けました。7月31日に日銀の植田総裁は17年ぶりに政策金利の引き上げを発表、折悪しく利下げ時機を検討している米国で前日に雇用統計の悪化が公表され、株価急落・円急騰。事件、事故など特段の事情がなく、底値を探るにも不透明感が増幅され週明けの8月5日に株価は80年代末のブラックマンデーを越える史上最大の下落を演じました。これまで新型コロナウイルス危機への対応で世界中にマネーが大量に散布されてきた影響もあり、数値だけの記録的な乱高下を

続けている印象ですが、日本では「金利のある世界」「円高」等、脱アベノミクスに向かつていることは確かです。加えて世界でも先行きの不確実性は依然高いまま。中東ではイランとイスラエルの対立が激化してきたほか、アメリカでは大統領選の結果次第では、内戦が起こると予想する論者もいます。先々何が起きてもおかしくない状況にあり、9月以降の講演会テーマもそれだけ多様多彩になると考えています。

10月の講師はノンフィクション作家の塩田潮氏、住友商事グローバルリサーチのチーフエコノミストの本間隆行氏、第一生命経済研究所首席エコノミストの永濱利廣氏、東洋経済新報社報道部記者の印南志帆氏を予定しています。

(日暮良一)